

会 議 録

1 附属機関等の会議の名称 松川町行政評価委員会

2 開催日時 令和4年8月19日(金) 午後6時30分から午後8時まで

3 開催場所 松川町役場2階 大会議室

4 出席者氏名

松川町行政評価委員会委員

会長 小川光兵委員、小澤文人委員、高坂龍夫委員、川合征人委員、清水祐一委員、
竹村暢子委員、水野一昭委員、吉澤良子委員、中村美幸委員

(欠席 副会長 原節子委員、篠田阿依委員、松下忠寛委員、松尾雅子委員、松下敏章
委員、白河勝行委員)

役場出席者

町長 宮下智博、

総務課 米山政則課長、住民税務課 池上徹課長、保健福祉課 塩倉智文課長、産業観
光課 田中学課長、建設水道課 原高広課長、リニア対策課 小沢雅和課長、生涯学習
課 高根竜二課長、図書館資料館 福島俊美館長、議会事務局 加山隆浩局長

(欠席 こども課 下井昭二課長)

役場まちづくり政策課(事務局)

北原正将係長、大橋良平係長、林雅人主任

(欠席 佐々木課長)

5 議題(公開又は非公開の別)

(1) 令和3年度行政評価について(公開)

(2) その他(公開)

6 非公開の理由(会議を非公開とした場合) ー

7 傍聴人の数 1人

8 会議資料の名称

- (1) 令和3年度 行政評価の概要
- (2) 令和3年度 行政評価
- (3) 会議次第
- (4) 出席者名簿

9 審議の概要

- (1) 開会（会長）

- (2) 会長あいさつ（会長）

- (3) 町長あいさつ（宮下町長）

《町長退席》

(4) 協議事項（司会 小川会長）

ア 令和3年度行政評価について

《会議資料(1)及び(2)に基づき事務局から説明》

《委員からの意見、質疑》

（委員）いくつか質問と意見をさせていただきたい。若者と地域をつなぐプラットフォームについて、場所なのかデジタルコンテンツなのか、具体的な方向性はあるのか。若者の流出の歯止めやIターン・Uターン・移住の促進など、解決すべき町の課題の解消に繋がっているのかと感じる。

また、空き家バンクだが、移住体験の際に安心感のある移住先の決め手となりうる情報源となっているか。空き家になる前に活用できるような、もっと踏み込んだ情報収集を行い、なおかつ斬新なアイデアを募集するなどして若者のニーズに沿った施策に取組めば、もう少し進むのではないかと感じる。

地域の防災について、気候変動に伴っていつどこで災害が発生してもおかしくない時代なので、自治会など小さなコミュニティの中で常に防災意識を持って訓練ができる組織づくりができるかと思っていて、リーダーの養成をもっと危機感を持って行っていくべきではないか。首長だけでなく、親の会や婦人会などに働きかけ、小さなコミュニティの中でのリーダーを何人も作っていくことによって、いざというとき動ける人が身近にできるのではと感じる。

消防団だが、操法大会の訓練の内容の見直しなどを行ってほしい。団員の負担が大きいということはもう何年も前から声が上がっていることだと思う。コロナ禍で、考え方が変わったことがきっかけになると思うので、ぜひ見直してほしい、新入団員確保に注力していただくことが地域防災の備えに繋がるのではないかと感じる。

コミュニティバスの活用について、ガソリンの高騰など社会情勢を考えても、より効率のよい運用方法を考えてほしい。例えば、土日夜間の時間に合わせた運

用などを行い、学生や観光客の利用も検討してもらいたい。

農業の担い手育成と後継者就農並びに新規就農者の受入れ支援について、農業者の高齢化は今後ますます加速していくおそれがあるため、里親制度や新規就農希望者とのマッチングを仕組み化して、耕作地や農機具、移住先のあっせんなど経済的支援や研修を行うことによって事業の成功となるのではと考えている。また少し細かいが、現在、3年間の農業経営収入保険の費用補助が町独自で取り組んでいる事業でとてもよいと思うが3年間のみではなく、延長して新規就農者だけではなく既存の全ての農業者に対する幅広い支援にも注力していってもらおうことで、町の農業が活性化され続けていくのではないかと考えている。以上です。

(事務局) まず、若者と地域をつなぐ仕組み作りについて、確かなかなか土台作りができてないが、現在、インターンやMMMプロジェクト等を絡めながら大学生にアプローチし、松川町の魅力などを発信している状況である。

最近はできていないが、高校生等にもこれからプロジェクト等を考えており、町外に出てもまた帰ってこられるような仕組み作り、事業について検討しているところ。

続いて空き家バンクについて、空き家になる前ということだが、現状、そのような情報を捕捉することが難しい状況ではある。空き家登録をしたいという相談はあるが、その後成立するかというとなかなか件数としては多くなく、毎年1、2件の成立という形になっているので、踏み込んだ募集、例えば若者に見てもらえるような、あるいは外からでも入ってもらえるような募集の仕方、見せ方を検討して取り組みたい。貴重なご意見をありがとうございます。

(総務課長) 消防団や防災関係についてご意見をありがとうございました。確かにおっしゃる通り消防団員は減少をしており、機能別団員の方に補っていただいたりする中で自主防災会は非常に重要な役割を果たしてくるかと考えているところ。ご提案いただいたように、親の会だとか婦人会のような組織もその中に取り込んでいくことは、重要なことだと思っている。実際に災害が起こると、避難所では男性の視点だけではなく、親それから女性の視点がとても大事と考えており、男女共同参画の中でも指摘をいただいていることもあり、そういったものの組織化について少しこちらも踏み込んで考えていきたい。

自主防災リーダー研修会も昨年は1回しかできなかった。そのリーダー研修会もマンネリ化した内容だったが、今年度は講師の方を変え、心理的な側面、例えばどうして避難をしないのかというようなことも新たに取組んでいる。自分たちの地域は自分たちで守るといったような意識を醸成していくような部分は大事だと思っているので、そのような取組みを進めていきたい。

操法大会については、確かに近隣の町村の中には、既にとりやめたところもあるが、当町では何年かコロナ禍でできなかった。今年度については、団長の強い思いで、消防力の維持というところではなかなか普段の訓練では培えないものがあるということ、その中で順位を目指すということではなく、実践に向けた訓練ということ

とで、今回実施した。やはり団員が増えないということもあるので、団員の年俸や出労報酬については、各団へ支給する形となっているが、単価を決めて本人へ直接支給するよという総務省の通知通達が出ているので、令和5年度に向けて処遇改善も進めていく。

(事務局) 公共交通対策について説明をさせていただきたい。一昨日、公共交通の視察を佐久市の方に行ってまいった。現在は定時路線でバスを走らせているが、このあり方について検討を進めている。燃料の高騰というお話を頂戴したが、やはり利用者がいない中で、いわゆる空気輸送をしているというこの状況をどうかしていかないといけない。解決策として、予約をしてもらってニーズがある時間に乗り合いで車両を運行させるというような方向に検討を重ねているところであり、来年の春にはこのような形でスタートできればとは思っているところ。観光客向けというお話もあったが、そうすると民間の事業者とすれば例えばタクシーを使ってほしいということもあり、これが新しい課題としてもう少し検討を重ねていかないといけない。ただ、リニアの話もある中で、広域的に考えれば観光客が来て、駅からどのように移動してもらうかということは、北部5町村でリニアまちづくり構想を立ち上げているところなので、観光と公共交通というところもまた検討していきたい。現状とすれば交通弱者対策の検討を始めているので、ご認識いただければと思う。

(産業観光課長) 農業の担い手不足については町にとっても、一番大きな課題である。担い手が不足することによって大切な農地が荒廃し、林地化してしまうことが最大の課題だと考えている。町でも果樹研修生を入れたり、新規就農者の受け入れを積極的に行っている。おかげさまで、町内には指導していただける専門農家の方々、普及員のOBの方々とか、技術的にはかなり恵まれているところもある。また研修生が滞在できるような住まいもできるだけ多く確保するようにしている。ただそういう仕組みがまだ行き届いてなくて、農地はどうするのか、農機具はどうしたらよいのかというご意見はご指摘のとおりだと思う。その点については、土地を保有しながらあっせんしたり、あるいは農機具も受け渡しのようなことができるよう法人を立ち上げたいと検討しているところ。また補助事業も使いながら支援をしていきたいと考えている。あと保険は言われるとおり3年間の期限だが、これは広く農業者を確保していくためにも大事なことなので、検討してまいりたい。

(委員) 行政評価書を拝見したが、これを果たして使いこなせていけるか、この評価を次年度の計画にどのように結び付けているかをお伺いしたい。というのは本来であれば進捗状況を把握した上で、それに基づいて予算の配分などができていれば、評価したということで一定の成果が出たということだと思う。しかし、この評価は概要にもあるように、総合計画のためのものと書かれていることを見れば、そのようなことはしていないと見受けられる。ただ議会に報告してホームページにあげたというだけでは、職員の事務負担が大きいことに対して、その効果が少ないようだともったいない。

財政について、歳出がどんどん増加傾向という中で、歳入確保という文言があるが、税収も人口減で減っていき、交付税の総額も削られていく傾向がある状況下では、新たな歳入の確保はなかなか難しい。そういった中で、こういった行政評価を出して、満足のいく施策っていうのは無理ではないか。というのは、どこかで歳出を削減していかないと、松川町自体もたなくなる。こうした意味で、町民に過度な期待を持たせるのもどうかと思う。あと計画が2年あるので、次の評価について、精査したうえで、負担の少ない評価にしてもらえたらと考える。ターニングポイントとなる事業がいくつかあると思うが、個別の施策に対して町としての相違なのか担当係長や課長の思いなのかかわからないが、こうして細かく評価が出ると事業の推進に当たって、難しくなる場面が出てくるのではないか。数値目標は数値目標としてある一方、町の方針などが、例えばこういう形で担当の考えだけで出てくるとあとあと大変なのではと感じている。

ここまでは要望で、もう1点、観光まちづくりの関係で、関係人口の増大という中で、ツリードームとフォレストアドベンチャーの数値がない。そもそも、ツリードームなどは町民の福利厚生の上昇のためというよりは観光なので、一般会計でこの運営をしていること自体が疑問で、本来は特別会計を組むべきではないかと感じている。

(事務局) ありがとうございます。評価の在り方について、総合計画に紐づいた評価となっており、前回の計画と比べてもっと評価項目を絞っていかうとした経過があるものの、それでもまだこれだけ厚い冊子が出来上がってしまう。こういった施策の評価が、そのあとの予算や人員配置に反映されているかという点、どうしても総合計画への反映ということに限られていて、ちぐはぐになっていることは否めない。次のステップとして、見直しも考えてまいりたい。できていない分野をどうするかということは、例えば、この前信濃毎日新聞に、小中学生の数が10年前と比べて落ち込んでいるという記事があった。周辺市町村と比べても、松川町の落ち込みは相当ある。こうした課題も踏まえて次の計画に盛り込んでいくネタ集めというところでは、評価の中でできればと思う。

(産業観光課長) ありがとうございます。まず数字がないということで、ツリードームやフォレストアドベンチャーの数字はあった方がいいと思うので、また次年度以降に生かしていきたい。

施設の運営は、現在、どちらも一般会計で運営している。フォレストアドベンチャーについては、清流苑のスタッフが管理しているというような形で運営している。ツリードームは一般会計において観光まちづくりセンターに委託をし、管理運営の方をやっていただいている。どちらもここに来て非常に利用者が伸びてきている。特にツリードームは人気が出ており、予約も埋まっている状況である。フォレストアドベンチャーも、この夏シーズンも家族連れのお客様がいらっしゃっているし、修学旅行の関係でも来ていただいている。これを特別会計としていくかということについては、内部でしっかり相談させていただきたい。この場ではご意見として頂戴した

い。

(委員) 商工関連の今年の評価をみると、私どもの考え方と少し乖離があると感じる。商工業と言っても、飲食業だけではない。飲食業は各種補助金・助成金で助かっている部分はかなりある。ここについては、大変ありがたい。しかし、これも永久に続くわけではなく、終わるときがくる。商工を飲食業のみで見られると困る。工業というのは町でも重要な産業で、工業に従事する従業員、工業自体の納税額も町にとっても相当大きな金額だと思うが、工業に対しての町の投資額が少なすぎるのではないかと。

それから、松川インター企業団地はもうやらないとなっているが、これは永久にやらないということか。永久にやらないとなれば、工業従事者の人口増も厳しいと思う。1年2年でできる話ではないと思うが、なんとか、やらないということではなくて、10年20年先を見据えたビジョンを出してもらいたい。今のままでは、近隣市町村と比較しても、工業は衰退していくのではないかと危機感がある。産業の発展がなければ、町は絶対に発展しないと考える。このことを町がきちんと考えてもらいたい。評価4という数字から見れば、あまりにも商工業への投資が少ないのではないかと。清流苑が栄えるのはいいと思うが、商店街が衰退するのでは本末転倒だと感じる。祇園祭でもものすごく人手があった。このあたりにヒントがあると思うし、商店街も空き店舗が増えているが、お店をやっていた人たちはそこに住んでいるわけで、行政のお知恵を借り、もう少し商工業に寄り添ってもらいたい。

(産業観光課長) ありがとうございます。工業については、出荷額や納税額からみても町の占める施策のうち相当大きな部分を占めており、大変重要であると考えている。工業に対する現状の支援としては、工場等設置事業があり、工場の新設、土地の取得に対する税金を3年間相当補助するという部分と、大きな機械等300万円以上の償却資産を購入した場合にはその税金に当たる部分への補助をやってきてはいる。それから例の松川インター企業団地の方は現在、農業専用の土地利用になっているので、計画はなしとなったが、今後は、やはり片桐松川を中心に各種優良企業が集積しており、空いた土地もあつたりするので、お話にもあつたように、10年20年先を見据えながら計画を立てていかなければいけないと思っている。まとまった農地ばかりでなくても空いた土地や空き店舗等が出てきているので、そういう小さなスペースでもいろんな企業なり事務所なりを誘致し、何とか活用できないかということをやっていきたい。商店街についても、あらいを考える会の皆さんと一緒に、様々な組織、団体の皆様の手助けができるような、新しい組織を作っていきたいと考えている。

(委員) 言い忘れたが、松川大橋南から上へつなぐ道路はもうできないのか。松川護岸には優良企業がいくつもある。整備すれば、近隣市町村に負けないくらいのポテンシャルがあると思っており、何度も言ってきている。できるかどうかかわからないが、今やれるチャンスではあつたが、今からでも遅くはないので、なんとか県や国に働きかけてやってもらいたい。

(建設水道課長) 県道上片桐停車場線バイパスの話と認識している。昨年の8月に県の説明会があり、非常に難しい状況となっている。このぐらいしかお答えできず申し訳ない。委員は昨年、東西の道についてお話しされたと思うが、町はリニア対策課にて洞新線及び護岸線を工事中である。そこから、運動公園前の道について、特にクランクの箇所は、飯田建設事務所に間に入ってもらい、天竜川上流河川事務所と3者協議をしたなか、ご存じのとおりJRの鉄橋があり、非常に難しく、ここ何年かのうちにというわけにはいかないが、一步前に進んだと思っている。10年20年先にはいってほしくないとは思っているが、国も鋭意JRと話はしてくれている。どうしても町単独の力では難しい部分があるので、国や県の支援をいただきながら東西の縦線の整備を進めているところなので、ご理解いただきたい。

(委員) 要望として、地域防災計画に基づいた体制づくりの一環で、町が作成した防災ハザードマップが全員に配布されたと思うが、ただ配られてしまいこんでいる方が大勢いらっしゃるのではないかと思う。先ほど、自主防災リーダー研修会を行っている聞いたが、自治会でもっと防災意識をもって考えなければいけないと思う一方、町の方でもハザードマップを発信するような出前講座など行ったりしてもらいたい。もし災害が起こった時に、行動できないということが自分自身もあったりするので、是非地域に出向いて話をしてもらいたい。

(総務課長) 総務課危機管理係から、防災ハザードマップをお配りしており、関心のある方ない方いらっしゃると思う。今度の町の防災訓練では、従来町と区と自治会の安否確認の人数報告を行うのではなく、少し自治会に主体性を持っていただき、自治会で計画していただく。ハザードマップを見てどこが危険なのかを把握していただくということもメニューひとつとして取り入れてもらいたいというお願いをしている。すべての自治会にやっていただくわけではないかもしれないが、そういうところから少しずつでも意識をしてもらえたらよいと考えている。出前講座については、お声がけいただけるように、町からもPRしていきたい。

(委員) 行政評価とは少しかけ離れるかもしれないが、最後に要望として一言だけお願いします。委員になって、なんとなく行政評価が住民からかけ離れていて、実感がないように感じる。評価は評価として受け止めるが、住民がよかったなと思える評価でなければ意味がないのではと思う。コロナ禍において、職員の皆さんも仕事がしづらい状況であると思うが、私が一番願うのは、先頭に立って仕事をする職員の皆様が縦横の連携を密にし、議員の皆様やここにいる委員の方たちなど、色々な人と連絡を取りながら、職員がまず協力して、行政評価がより高く、より住民に浸透するような体制を取ってもらいたい。

(委員) 松川町に来て15年が経ち、松川町は本当に資源にあふれた良い町だと思う。全国的にみても果物の有数の産地であることはもちろん、ここに集まった委員の皆さんをはじめ、松川町のことを真剣に考えてくれている人がいる。自分としても、松川町

の人口が減っていく中で、何とかしなければいけないと考えており、何かできることはないかと考えている。もしわかれば、移住希望者がどれくらいいらっしゃるか教えていただきたい。

(事務局) 具体的な移住希望者そのものの数値は持ち合わせていないが、移住体験住宅の利用者数で言えば、果樹研修生や地域おこし協力隊が利用していたりもするが、昨年度は6件4名の方が利用されているという実績はある。

イ その他

特になし

(5) 閉会 (会長)